

第3期

6.4fri - 6.20sun

Genki ISAYAMA

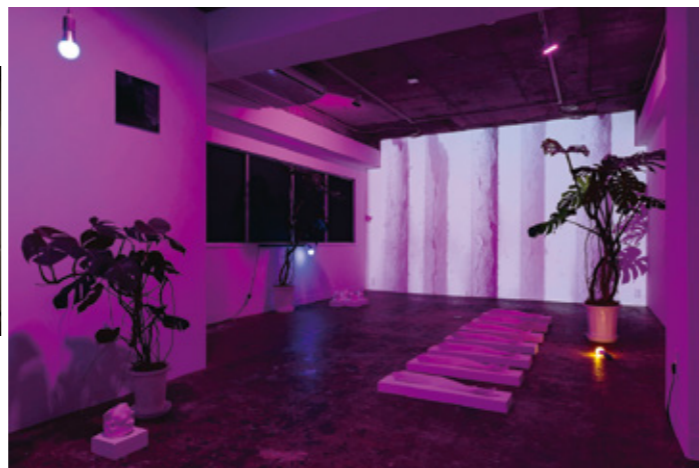
諫山元貴

全てのものが均一化しつつある状況や人間さえも取り換え可能なものとして生産する経済システムのなか、唯一オリジナルなものを感じることがあるとすれば、自身の肉体が朽ちていくなどの崩壊過程だと考える。自身ではコントロールできない出来事によって複製品が崩壊、融解していくような様子や瞬間をつくり出し、それらを映像や立体を通し発表している。



《Order #3》2020

Photo:TUZUKI Toru



個展「Dummy」EUREKA、福岡、2020 展示風景

いさやま・げんき | 美術家。1987年大分県生まれ、広島市在住。京都造形芸術大学美術工芸学科総合造形コース卒業後、広島市立大学大学院芸術学研究科博士前期課程修了。2014年吉野石膏美術振興財団在外研修助成にてベルリンに滞在、Studio Haegue Yang のレジデンスプログラムに参加。主な展示、受賞歴に「Dummy」(EUREKA、福岡、2020)、「NONIO ART WAVE AWARD 2019」グランプリ、「ゲンビどこでも企画公募2019」(広島市現代美術館)入選・観客賞、「BankART Life V〜観光」(BankART Studio NYK、横浜、2017)、「Sights and Sounds: Japan」(The Jewish Museum、NY、2016)等。

Mika KAN

菅 実花

マトニティーフォト、死後記念写真、セルフポートレート、プリクラ、画像加工などの写真文化を踏まえ、ラブドールやリボンドールといった人形の文脈を交錯させた写真作品を手がけている。

主に19世紀以降のフィクションで描かれる人工的身体や人工生命をリファレンスにして、今日のヒューマノイドロボットや高度生殖医療などの技術的進歩によって変遷しつつある新たな身体観や生殖の在り方を描き、「人間とは何か」を問う。

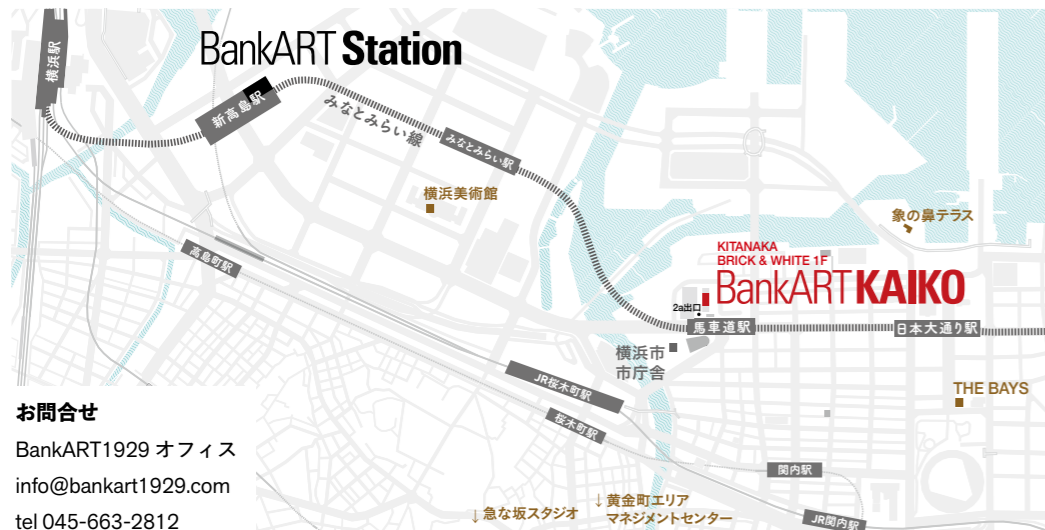


《Untitled 09》2020



《A Happy Birthday》2020

かん・みか | 1988年横浜市生まれ。2021年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻博士後期課程修了。主な展覧会に「黄金町バザール2017」(横浜)、個展「The Silent Woman」(文京区立森鷗外記念館、東京、2018)、個展「The Ghost in the Doll」(原爆の図丸木美術館、埼玉、2019)等。出版・連載に共著『〈妊婦〉アート論』(青弓社、2018)、小説『本心』作・平野啓一郎(北海道・東京・中日・西日本新聞朝刊、2019-2020)の挿絵を担当。VOCA展2020奨励賞受賞。



お問合せ

BankART1929 オフィス
info@bankart1929.com
tel 045-663-2812



アクセス

BankART KAIKO
横浜市中区北仲通5-57-2
KITANAKA BRICK & WHITE 1F
tel 045-663-2813
みなとみらい線「馬車道」駅
2a出口直結徒歩1分

BankART Under 35 2021

35歳以下の作家の
個展シリーズ



第1期
4.23fri - 5.9sun
Koto IHARA
井原宏路
Aiko YAMAMOTO
山本愛子



第3期
6.4fri - 6.20sun
Genki ISAYAMA
諫山元貴
Mika KAN
菅実花



第2期
5.14fri - 5.30sun
Riko KINOSHITA
木下理子
Osamu SHIKICHI
敷地理
Miya KANEKO
金子未弥

BankART KAIKO

横浜市中区北仲通 5-57-2 KITANAKA BRICK & WHITE 1F
時間 11:00~19:00
料金
一般200円(カタログ1種類1部進呈)
中学生以下及び、障害者手帳お持ちの方と付き添い1名は無料

主催:BankART1929 共催:横浜市文化観光局

BankART Under 35 2021

BankART1929の2021年度の最初の企画展は「BankART Under 35 2021」という35歳以下の作家の個展のシリーズです。2008年からこれまで39チームのクリエイターが選ばれて、展覧会を開催してきました。2021年度は7名の作家を3期にわけてご紹介します。

第1期：4月23日～5月 9日 井原宏路、山本愛子
第2期：5月14日～5月30日 木下理子、敷地理、金子未弥
第3期：6月 4日～6月20日 諫山元貴、菅実花

時間 | 11:00～19:00
料金 | 一般200円(カタログ1種類1部進呈)、中学生以下及び、障害者手帳をお持ちの方と付き添い1名は無料
※各作家の個人カタログ(A4版/16～24p)

第1期

4.23fri - 5.9sun

Koro IHARA

井原宏路

生物が生きていて生み出す副産物や生物の習性などに着目し、それらを生物が作った彫刻として自立させる作品を制作している。近年は、動物の糞を漆で覆い、排泄元の身体の形に戻す作品や、土で出来たツバメの巣やミミズの糞塚を生物が作った彫刻と捉え、生物が作った形のまま窯で焼成してセラミックに変えるプロジェクトを行なっている。見向きもされないものに敢えて目を向けることで生態系とその循環について見つめなおす。



《made in ground》2019



《cycling - dead or deer-》2016

いはら・こうろ | 1988年大阪府生まれ。2013年東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。平成29年度ポーラ美術振興財団在外研修員としてイタリアで研修。主な展覧会に「デイジーチェーン」(TOKAS本郷、東京、2020)、「BankART Life V - 観光」(BankART Studio NYK、横浜、2017)等。2019年 TOKYO MIDTOWN AWARD 2019「グランプリ」、2017年第20回岡本太郎現代芸術賞「岡本敏子賞」、2016年トーキョーワンダーウォール2016「トーキョーワンダーウォール賞」受賞。

Aiko YAMAMOTO

山本愛子

主に染織技術とそのエッセンスを元に、平面やインスタレーションなど様々なアプローチによる表現を行う。自然からの生命を得た素材が持つ循環性や土着性について考え、アジアを中心とした染織にまつわるフィールドワークを行うほか、自身で染料になる植物を育てるにも取り組む。人間の生活に寄り添う「布」の存在に惹かれ、人や風土の記憶を染め、作品に反映させることを試みている。



《Distribution Map # 2》2021



《光と生息》2020

やまもと・あいこ | 1991年横浜市生まれ、横須賀市在住。東京藝術大学大学院先端芸術表現科修了。平成30年度ポーラ美術振興財団在外研修員として中国で研修。現在は横須賀市の「YOKOSUKA ART VALLEY HIRAKU」を拠点に活動。主な展示に「Pathos of Things」(宝蔵蔵国際芸術村、台北、2019)、「Hopes & Dialogues in Rumah Kijang Mizuma」(ミヅマアートギャラリー、シンガポール、2019)、「交叉域」(蘇州金鶏湖美術館、蘇州、2019)等。

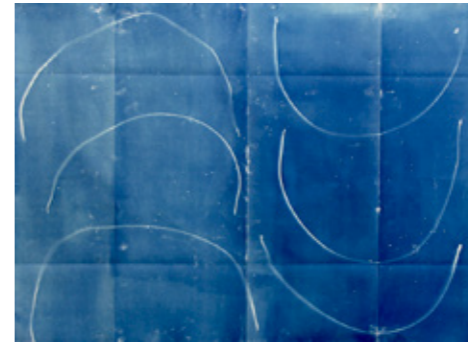
第2期

5.14fri - 5.30sun

Riko KINOSHITA

木下理子

全てのものは自然のエネルギーに晒され、絶えず変化しています。消滅と生成、無機物のアポトーシス。この循環性が私の創作活動では重要です。作品に現れる図像は、現実世界を指し示すベクトル(矢印記号)のような役割を持っています。それは何かのオマージュではなく、世界を抽出して観るためのフィルターとして作用します。不可視な対象を引き寄せる、知覚装置としての作品群を様々な手法で作りを続けていきたいと考えています。



《柔らかな髪 # 1》2020



2019年個展「空気の底」展示風景

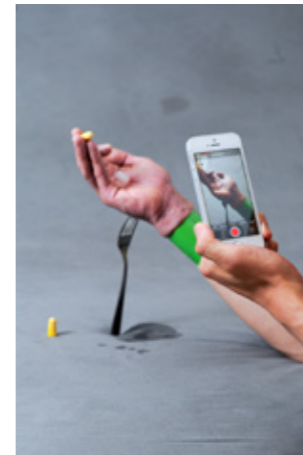
きのした・りこ | 1994年東京都生まれ。2019年武蔵野美術大学大学院修士課程美術専攻油絵コース修了。主な個展に「How to touch the Earth」(JINEN GALLERY、東京、2019)、「空気の底」(児玉画廊、東京、2019)、「時間はずした日」(フリユウ・ギャラリー、東京、2019)、「nonempty」(コート・ギャラリー国立、東京、2020)。グループ展に「Slide, Flip, and Turn - 7人のアーティストブック展 -」(武蔵野美術大学美術館・図書館/図書館、東京、2018)、「CAF 賞2019入選者作品展」(ヒルサイドフォーラム、東京、2019)、「ignore your perspective 54 "How I wonder what you are" 木下理子 / 中川トラヲ」(児玉画廊、東京、2020)等。

Osamu SHIKICHI

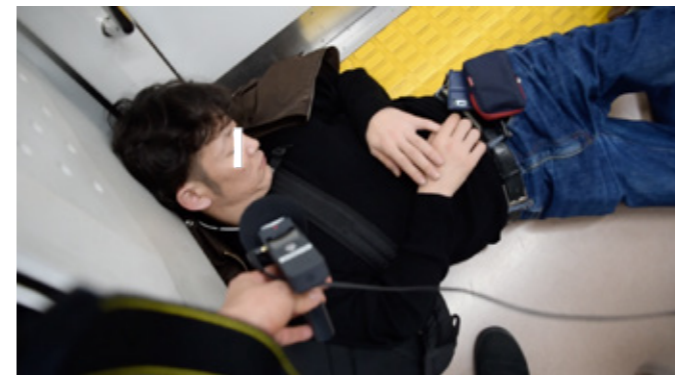
敷地理

素材との対話を自分の身体との対話に移し替え、知覚、それ自体が始まる身体そのものを素材に彫刻をつくり始める。その過程で身体的臨界状態がつくる境界を強調し、また曖昧にすることで、強い現実感を生むパフォーマンス、ダンス、彫刻作品などの制作を行う。

しきち・おさむ | 1994年埼玉県生まれ。振付家・ダンサー。ベルリン芸術大学交換留学。武蔵野美術大学彫刻学科卒業。東京藝術大学大学院修士課程修了。YDC2020若手振付家のための在日フランス大使館賞受賞。主な作品発表に「ハッピーアイスクリーム」(YDC2020)、「振動する固まり、ゆるんだ境界」(TPAM2020 Fringe)、「blooming dots」(豊岡演劇祭2020フリンジ/CAF 賞2020/TPAM2020 Fringe)、「Juicy」(YDC2021)など。また主な出演作品に「The Retreat / Thanapol Virulhakul」(TPAM2020 Direction)等。



《blooming dots》2020



《循環、都市、律動、私たちの最後の7分間》2018 / movementscapeのサンプリング風景

Miya KANEKO

金子未弥

人が持つ場所の記憶に関心を抱き、記憶を導き出すプロジェクトを続けている。近年は、都市で生活する人の「場所の記憶」を引き出すワークショップを行い、参加者との会話の内容から都市像を再解釈しようと試みている。また、普段は目に見えないが確実に存在している他者の記憶は、都市を構成する一要素であるという仮説を元にインスタレーション、ドローイングなどの作品制作を展開している。

かねこ・みや | 1989年横浜市生まれ。2017年多摩美術大学大学院美術研究科博士後期課程 修了、博士号(芸術)取得、ラウンドテーブル2020「遊具―遊び心をくすぐる―」(KOCA、東京、2021)、「Creative Railway～みなとみらい線をつなぐ駅アート」(元町・中華街駅、横浜、2020)、「黄金町バザール2020」(横浜、2020)、2018年ART IN THE OFFICE 2018 受賞、2017年Tokyo Midtown Award 2017 グランプリ受賞、2017年～黄金町エリアマネジメントセンター レジデンスアーティスト(横浜)等。



《未発見の小惑星観測所》2020 ©Yasuyuki Kasagi



《都市をスケールから解放するためのワークショップ》2018

©Yasuyuki Kasagi